

## 1. 箇所別カルテについて

- 番号1-2の対策立案図中にある「暫定形(4/6車)」の意味は？(中村委員長)  
→完成6車線に対して4車線完成という意味です。(横浜国道)
- 番号1-4の案内標識等の検討について、九州方面の事例として、車両を誘導する際に方向別のカラー舗装を設置し、各方向の案内標識はカラー舗装と合わせた色で設置する事例があります。検討の参考とされてはいかがでしょうか？(神奈川県)  
→参考といたします。(横浜国道)
- 工事の進捗については定性的な表現ですが、完成予定年度に対して無理のある現状ではないと考えて良いでしょうか？  
→基本的には無いと考えています。ただし、各事業とも用地取得がコントロールになるため、完全にとは言いにくいですが目標供用年度を達成できるよう努力しています。(横浜国道)
- さがみ縦貫等は段階的な供用となるため、ネットワーク効果が高くなるよう供用順序を決定すべきである(中村委員長)  
→現状でそのように計画しています(横浜国道、神奈川県)
- 国道134号と129号の高浜台交差点の混雑が激しいと感じています。対策が掲載されていませんが、そのような認識は有りますでしょうか？(神奈川県県政モニター)  
→認識しています。高浜台交差点から西側に関する渋滞対策は関係機関で検討中です。しかし、現状では対策案が具体的に出していない状況です。(横浜国道)
- 国道16号梅の木交差点を十字交差点とする案は考えられないでしょうか？以前も提案していますが。  
(神奈川県県政モニター)  
→検討として、道路用地内で出来ること→用地買収を伴うことという流れで考えていますので、案としては考えています。  
(横浜国道)
- 箇所別の検討と道路整備全体のマスタープランが必要であると考えます。(神奈川県県政モニター)  
事業の進捗状況に関する表現は、道路管理者によらず、同一レベルで示すこと。例えば、用地取得率等、現状直轄事業にしか記入されていないが、他の事業についても出来るだけ記入すること。(中村委員長)
- 各箇所における対策の方向性を示した上で、短期対策や長期対策をそれぞれ示すこと。抜本的な対策が必要という意見がある箇所は、短期対策だけではなく抜本的な対策も示すこと。(中村委員長)

## 2. PDCAサイクルの今後の進め方について

- PDCAサイクルの流れは、道路側だけではなく、関係機関の協力についても記載すべき(中村委員長)